



右から 河村喜美子さん
佐藤祐作(チーフ)さん
桜井珠明さん

同社でビルの美装に従事し、『サットリ君』に配属になった河村さんは清掃経験3年目の中堅。桜井さんはまだ半年ほどだが、「あ、きれいになった!」という顧客の声がやりがいと話している。

普段の清掃経験をフルに活かしつつ きれいにする喜びが味わえる仕事

見えない汚れを、人目につかずサ

ッと取る。そのイメージを忍者に重ねた『おそうじ忍者サットリ君』。店舗やオフィスの美装を手がける日美装建が昨年秋に立ち上げた、ハウスクリーニングの専門部隊だ。

同業界では後発組だが、ユニークなネーミングと丁寧な仕事ぶりが評判となり、依頼が引きも切らない。戸建て住宅やマンション住戸の台所・風呂・トイレなど水回りから、フローリングのワックス掛け、ガラスやサッシ、また照明器具の清掃まで、要望に合わせて新築に近い状態にまで仕上げる。

作業にあたるのは30~40代の女性を中心とする7名のパートタイマー(うち2名が男性)。3~4名のチームを組み、そこに正社員のチーフが

付くという体制で現場を回る。

パートタイマーで最年少の河村喜美子さん(23歳)は、「この仕事は時間に追われる所以大変ですが、もともと掃除は大好き。お客様のお宅をピカピカに仕上げられた時がうれしいですね」と目を輝かせる。一方、『サットリ君』の立上げと同時に

「脚立が必要な高い場所の清掃には慣れるまで苦労しましたが、今では自宅に帰つてもつい汚れが気になつて。気がつくと延々と掃除しているんですよ」(笑)。

採用担当者が語る 家事経験で培った工夫や機転が何より大切な仕事です。



チーフ
佐藤 祐作さん

ハウスクリーニングの仕事には、ある程度の体力は必要ですが、テキパキと動ける方なら、年齢は関係ありませんね。それよりも、どうやれば時間内でベストな清掃ができるか常に工夫し、機転をきかせられるかどうかが大切。その点では、60歳を越えた方でも、長年の家事経験を活かして充分に力を發揮できる仕事です。また、きれいにするための技術は必要ですが、それ以前に、きちんととした挨拶ができ、笑顔で応対できること。基本はサービス業ですから。清掃と共に、人と接することが好きな方なら大歓迎ですよ。

シゴトで生活に プラスα 見えない部分の 汚れを発見!

自宅の清掃では気付かなかつた清掃ポイントがわかった。ドアの上部や排水溝の奥の汚れなど、普段は手をかけない部分を、顧客の要望でチェックしたところ意外な汚れが。目につきづらいこうした場所まで完璧に掃除するようになれたのは、この仕事ならではだ。



日美装建株式会社
『おそうじ忍者 サットリ君』

札幌市中央区大通西18丁目1-32 島田ビル5F
TEL011-614-8636
<http://www.sattorikun.jp/>

平成6年に創業、店舗やホテル、事務所などの清掃とメンテナンスを手がける日美装建(株)が昨秋に住宅向け事業として立ち上げた専門部隊。現在のサービスエリアは札幌と近郊のみだが、フランチャイズ方式での地域展開も予定。